

		音 楽 研 究 会		部 会 記 録	
日時	平成29年11月8日(水) 15:30~16:45				
部会名	研修部 授業実践部会(高学年)			主任	今泉 美保
参加数	7名	司会	今泉 美保	記録	山口 真貴子
研 修 内 容	市授業研究会 指導案検討・模擬授業 授業者：横浜市立並木第一小学校 森 薫 先生				
	<p>模擬授業をしながら、本時について検討を行った。</p> <p>○本時のめあてについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてにあるが、「思い出のメロディー」のBがなぜ盛り上がるのか、なぜ2声になっているのか、子どもと話し合いおさえる。そして、そのことを視覚化しておく。 <p>○音の重なるのたしかめについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の重なりはBに絞って取り組む。A´は斉唱にする。 ・トーンチャイムでの響きの確認は時間をかけすぎない。 ・はじめの、ソプラノとアルトで聴き役をたてて歌うとき、ソプラノとアルトで交代して歌う。お互いよかったら拍手をするとよいのではないか。 <p>○場の設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2か所で行う。 <p>○グループ活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き役をたてて、響きが合わなかったとき子どもは何と言うか。どんなアドバイスをすればよいのか子どもはわからないのではないか。 →Bの活動内容をレベルで示すことで、子どもが視点をもって聴き合うことができるのではないか。 指導案にある第2時で、どのように歌いたいか考えや思い、意図を全体で共有することで、グループ活動での視点が見えてくるのではないか。 ・できたとき、繰り返しになってしまうのではないか。 ・もしできたときはすべて通しBの盛り上がりを感じることができればよいのではないか。 <p>○グループ活動後の二部合唱について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の山を生かしながら聴き合う。 ・子どもが大きな1つの円になり、その外側に参観者の先生方でさらに大きな円をつくって最後歌うのはどうか。1番は子ども、2番は先生たちと一緒に歌うのはどうか。 <p>【小倉早苗先生より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛り上げ方は、主題の「全体の響きを聴いて歌おう」に沿って、豊かな響きやハーモニーで目指していく。子どもがそれを理解・意識しているかたしかめる。 ・6年生なので本時の内容はできると思う。 ・Bの部分だけだとハーモニー感をつかむのは難しい。全体を通すことで、Bの部分の盛り上げを感じることができる。 				